

「心房細動による脳卒中を予防するプロジェクト」(TASK-AF) を 開始

自治体・保険者・医療提供者等に具体的提言

公益社団法人日本脳卒中協会(所在地:大阪市、理事長:山口武典)とバイエル薬品株式会社(本社:大阪市、代表取締役社長:カーステン・ブルン)は、「心房細動による脳卒中を予防するプロジェクト」(呼称:TASK-AF: Take Action for StroKe prevention in Atrial Fibrillation)を共同事業として開始しました。その一環として、さまざまな医療専門家で構成する本プロジェクト実行委員会(委員長:山口武典・日本脳卒中協会理事長)はこの度、心房細動による脳卒中を予防するための地域一体的な取り組みを提案する提言書を発表しました。

心房細動は高齢者に多く見られる不整脈で、国内患者数は少なくとも約 80 万人と推定されています¹⁾。心房細動がある人は、ない人に比べて約 5 倍も脳梗塞(血管が詰まるタイプの脳卒中)になりやすいといわれています²⁾。心房細動が原因で心臓にできる血栓は比較的大きく、それが脳にとどと、脳の太い血管をふさぎます。この結果起きる脳梗塞(心原性脳塞栓症)は、ダメージを受ける脳の範囲が広いのが特徴です。そのため、死亡率(約 2 割)や、寝たきりなど介護が必要な重度の後遺症が残る可能性も高く(約 4 割)³⁾、患者本人や介護する家族の負担、そして社会・経済的負担が非常に大きくなります。高齢化の進展が著しい日本において、心房細動患者が今後急速に増加すると予想されており、この心房細動による脳梗塞への対策は早急に取り組むべき課題といえます。

心房細動による脳梗塞は最も重篤な脳梗塞ですが、脳梗塞予防のための適切な治療(抗凝固療法)により約 6 割が予防できます⁴⁾。したがって、心房細動を早期に発見し、適切な抗凝固療法を行うことが大変重要ですが、その実現には解決すべき大きな課題があります。

まず、心房細動の早期発見ですが、心房細動を見つけるには心電図が不可欠で、その症状が現れれば心房細動を疑って受診し、心電図検査を受けることが必要です。そのためには一般市民に広く、心房細動の症状と脳梗塞予防の重要性について知っていただく必要があります。症状だけでは不十分で、脳梗塞予防の重要性についても知識を持っていただかなければ、せっかく健診などで心房細動を指摘されてもその後の受診に繋がらず、脳梗塞を予防することができません。ただし、心房細動のうち自覚症状のないものや、短時間で消失する「発作性心房細動」は発見が困難なため、心房細動のリスクが高い方には、自覚症状がなくても定期的に心電図検査を受けていただく必要があります。

次に、抗凝固療法についてですが、脳梗塞発症リスクの高い心房細動患者に、適切な薬を適切な量、内服していただくことが必要です。不適切な抗凝固療法を受けると、脳梗塞の予防効果が低くなり脳梗塞を起こしたり、出血などの副作用が生じる危険性が高くなったりします。残念ながら現状では、適切な抗凝固療法を受けている心房細動患者は全体の半数程度とも言われる⁵⁾など、治療の課題も指摘されています。

このような背景を踏まえ、本プロジェクトでは、心房細動の早期発見と適切な治療を促すことで脳卒中の予防を推進します。本プロジェクト実行委員会は、自治体・保険者・医療提供者等に対し、現状と課題を踏まえた具体的な取り組みの提案を行うため、提言書「脳卒中予防への提言—心原性脳塞栓症の制圧を目指すために—」をまとめました(提言の要旨は別紙参照)。さらに今後、提言内容の一部をモデル事業として実際に行い、その効果を評価・周知していくことで、本提言内容がより多くの地域で実行され、わが国におけるより効果的な脳卒中の予防につながることを期待しています。

参考文献

- 1) Inoue H, et al: Int J Cardiol 2009; 137: 102-107
- 2) Wolf PA, et al. Stroke 1991; 22: 983-988
- 3) 奥村 謙、目時典文、萩井譲士. 心電図 2011;31:292-296
- 4) Secondary prevention in non-rheumatic atrial fibrillation after transient ischaemic attack or minor stroke. EAFT (European Atrial Fibrillation Trial) Study Group. Lancet 1993;342:1255-1262
- 5) Akao M et al. J Cardiol 2013;61; 260-266

以上

本件に関するお問い合わせ先：

「心房細動による脳卒中を予防するプロジェクト」事務局 (コスモ・ピーアール内)
担当：芳賀、長澤、山口 (Tel: 03-5561-2915, Fax: 03-5561-2912, Email : task-af@cosmopr.co.jp)

公益社団法人日本脳卒中協会について

脳卒中に関する正しい知識の普及及び社会啓発による予防の推進ならびに脳卒中患者の自立と社会参加の促進を図り、国民の保健、福祉の向上に寄与することを目的とし、平成9年3月に任意団体として設立され、平成17年3月に社団法人として認可後、平成24年10月1日に公益社団法人に移行しました。平成26年3月現在、46都道府県に48の支部があり、脳卒中を発症した患者さんやご家族を始め、医療従事者、行政・福祉関係者、一般の方々への情報提供や調査研究活動などを行っています。日本脳卒中協会に関する詳細は、ホームページ (<http://jsa-web.org>) をご参照ください。

バイエル薬品株式会社について

バイエル薬品株式会社は本社を大阪に置き、医療用医薬品、ラジオロジー&インターベンショナル(画像診断関連製品)、動物用薬品(コンパニオンアニマルおよび畜産用薬品)の3事業からなるヘルスケア企業です。医療用医薬品部門では、循環器領域、腫瘍・血液領域、婦人科・皮膚科領域、眼科領域の4領域に注力しています。バイエル薬品は、Science For A Better Life(よりよい暮らしのためのサイエンス)の企業スローガンのもと、技術革新と革新的な製品によって、日本の患者さんの「満たされない願い」に応える先進医薬品企業を目指しています。

バイエル薬品ホームページ：<http://www.bayer.co.jp/byl>

将来予想に関する記述 (Forward-Looking Statements)

このニュースリリースには、バイエルグループもしくは各事業グループの経営陣による現在の試算および予測に基づく将来予想に関する記述 (Forward-Looking Statements) が含まれています。さまざまな既知・未知のリスク、不確実性、その他の要因により、将来の実績、財務状況、企業の動向または業績と、当文書における予測との間に大きな相違が生じることがあります。これらの要因には、当社の Web サイト上 (www.bayer.com) に公開されている報告書に説明されているものが含まれます。当社は、これらの将来予想に関する記述を更新し、将来の出来事または情勢に適合させる責任を負いません。

「心房細動による脳卒中を予防するプロジェクト」による提言の要旨は以下の通りです。

提言1： 心房細動の早期発見のために

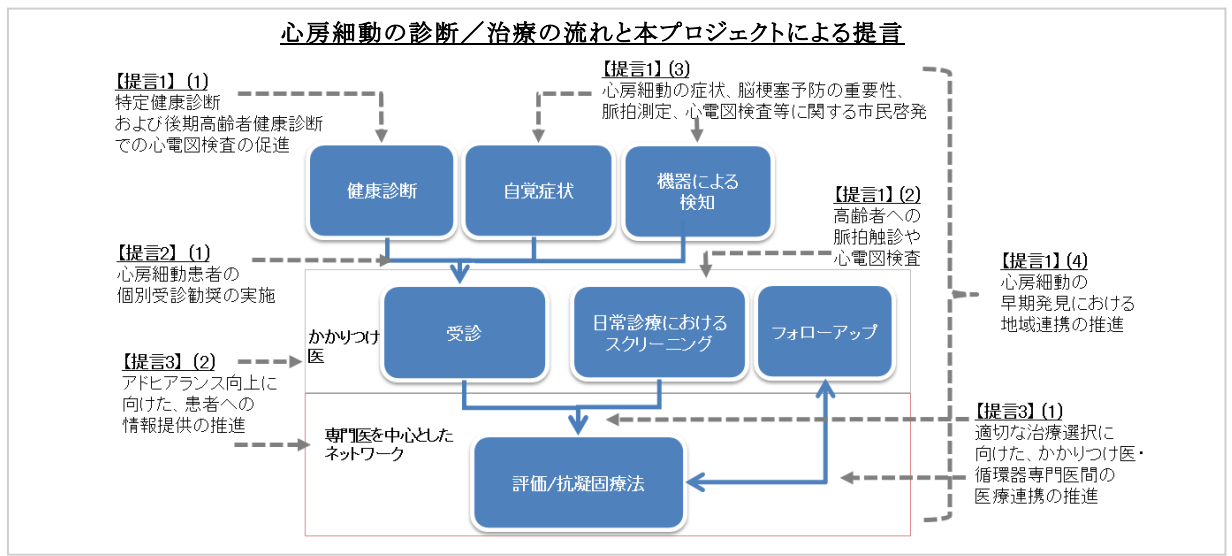
- (1) 特定健康診断・後期高齢者健康診断での心電図検査の推進
 - ・ 自治体における、高齢者に対する心電図検査の実施の促進
 - ・ 健診での高齢者に対する心電図検査の実施を促すための、国による環境整備の推進
- (2) 日常診療における心房細動のスクリーニングの促進
 - ・ かかりつけ医の日常診療における脈拍触診によるスクリーニング／高齢者への心電図検査の実施
 - ・ 心房細動の早期発見のための、かかりつけ医と循環器専門医の連携体制の整備
- (3) 心房細動の症状・脳梗塞予防の重要性、脈拍触診、心電図検査等に関する市民啓発
 - ・ 自治体を中心とした、メディア、市民向けイベントの開催などによる市民啓発活動を通じた、心房細動の早期発見の促進
- (4) 心房細動の早期発見のための地域連携の推進
 - ・ 心房細動の早期発見、および脳卒中発症予防のための、病院、診療所、リハビリ施設、介護施設、保健センターなどの地域の施設間における「顔の見える」連携の促進

提言2： 健康診断で心房細動を指摘された後の受診率向上のために

- (1) 心房細動患者への個別受診勧奨の実施
 - ・ 自治体／保険者による、健診・レセプトデータを活用した心房細動患者への個別受診勧奨の実施
 - ・ 受診患者の適切な評価・治療を促進する連携体制の整備

提言3： 適切な抗凝固療法の推進のために

- (1) 適切な治療選択に向けた、かかりつけ医・循環器専門医間の医療連携の推進
 - ・ 連携パスなどによる地域基幹病院、循環器専門医、かかりつけ医の連携体制の構築
 - ・ 医療連携を推進するための、診療報酬による評価など、行政による支援・推進
 - (2) アドヒアランス*向上に向けた、患者への情報提供の推進
 - ・ 治療における、患者の主体的な意思決定への参加、および適切な治療継続を促すための、かかりつけ医・循環器専門医による、心房細動や抗凝固療法への十分な情報提供の実施
 - ・ 医師と薬剤師の連携による、患者への適切な服薬管理・指導の実施
- *アドヒアランス：患者が積極的に治療方針の決定に参加し、その決定に従って治療を受けることを意味する。
(日本薬学会 薬学用語解説より)



本提言書の全文は以下のプロジェクトウェブサイトよりご確認ください。

< 「心房細動による脳卒中を予防するプロジェクト」 ウェブサイト URL: www.task-af.jp >